東海国立大学機構スタートアップ×名古屋大学創基150周年

目標累計額
200
億円

名古屋大学基金　募金キャンペーン

GO NExT

キャンペーン期間：

2019年4月—2022年3月

2019年　創立80周年（1939年 名古屋帝国大学）
2020年　東海国立大学機構設置
2021年　創基150周年（1871年仮病院・仮医学校）

NAGOYA UNIVERSITY 150th Foundation

創基150周年、
世界で輝くために

名古屋大学基金ウェブサイト
http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/

総長挨拶

「名古屋大学基金」へのご支援のお願い

名古屋大学 第14代総長
松尾 清一

名古屋大学は1871年設立の尾張藩仮病院・仮医学校を創基に、今日に至るまでの永きにわたって世界屈指の知的成果の創出に挑み続け、社会を牽引するリーダー人材「勇気ある知識人」の育成に努めてきました。名古屋大学は旧帝大の末っ子（1939年創立）で、戦後、帝大と言いつつも極めて限られた資源しかなく、まさにゼロからのスタートでしたが、地元の皆様から多くの支援をいただきました。その後、全国から優秀な若手教員が集結し、上下関係のない自由闊達な雰囲気が醸成されました。こうした名古屋大学の「環境」が、21世紀に入って今日までに本学関係者6人のノーベル賞受賞をもたらし、多くの卒業生が各界の中枢を担うまでになりました。本学に対する皆様のご支援によるものと感謝申し上げます。

今後、世界標準の教育と世界最先端の研究の推進、世界から選ばれる魅力あるキャンパスの実現、さらなるアジア展開を目指すと同時に、日本のものづくりの集積地に根ざす大学として、産学官連携によるイノベーションへの貢献も重要な目標に位置づけています。名古屋大学が指定国立大学法人として取り組む教育・研究活動は、このような時代の課題解決を目指す勇気あるチャレンジそのものです。実現のためには大きな壁が立ちはだかっていますが、勇気を持って、取り組んでいきたいと思っています。

これらの目標を達成するには、大学の自主財源となる「名古屋大学基金」の格段の充実が必要であり、そのために皆様のご理解とご支援が不可欠です。これまでの尊いご寄附は学生の奨学支援を中心に活用させていただき、その成果は着実に上がりつつあります。

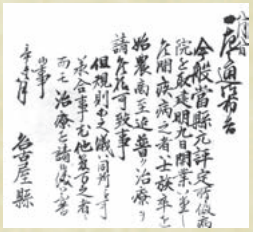
2021年、本学は創基150周年を迎えます。これを機に世界トップレベルの教育研究を実現すべく、現在、教職員一丸となって目標に挑んでおります。皆様方には「名古屋大学基金」に一層のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

GO NExT で加速すること

①教育改革と学生支援　次世代を創り出すリーダーの育成
②基礎研究の支援　次のノーベル賞受賞者
③産学共創の推進　学術成果の実世界への展開
④マルチキャンパスの整備

寄附の歴史から生まれた名古屋大学基金

愛知県公立病院・公立医学校見取図（1877年）



仮病院・仮医学校開業の布告（1871年）

東山が名帝大の敷地に決定したことを報じる地元新聞（1939年）

1943年に陸田志よう氏から寄附された陸田ビル（右）

古川記念館玄関前の、古川夫妻の寄附等に関する説明プレート（1964年）

ジェンダー・リサーチ・ライブラリ（2017年）

オークマ株式会社からの建設費寄附による、オークマ工作機械工学館（2020年）

名古屋大学は、地域の多大なる支援によって発展してきた大学です。

それは1871（明治4）年を創基とする前身学校の時代から始まっています。医学校、医科大学、八高、名高商等の設置にあたっては、地域の人々が寄附等でこれらを実現させました。

1939（昭和14）年の名古屋帝国大学の創立において、愛知県はその創立費の全額、当時の一般会計歳出額の約20%に相当する巨額を国に寄附しました。また、創立時に取得した東山キャンパスの敷地約16万1千坪も、多くの土地所有者から無償提供されました。

その後も、戦災から復興し、日本の基幹的総合大学となり、さらに世界屈指の研究大学をめざし、同時に地域の持続的発展に貢献していくにあたって、多くの企業や個人等から、資金や有価証券、建物等の形で多額の寄附をいただいてきました。

このような歴史の流れの中、第12代 平野眞一総長と豊田章一郎氏の発意により、2006（平成18）年に「名古屋大学基金」を創設、現在もなお多くのみなさまのご寄附を受け、その温かいご支援は、次世代を担うリーダーとなる人材、「勇気ある知識人」の育成へとつながっています。

完成式典当日の豊田講堂
（1960年、名古屋タイムズアーカイブス委員会提供）

トヨタ自動車及びトヨタグループ各社の寄附による、豊田講堂の全面改修・増築工事（2007年完成）

広報プラザ（1993年）

名大への主な寄附

寄附の内容	年
名帝大創立費及び東山敷地	1939
附属医院分院建物（陸田ビル）	1943
医学部復興費（応急校舎建設）	1947
農学部設置費及び敷地（安城）	1951
豊田講堂	1960
東山キャンパス本部棟	1963
古川図書館（現古川記念館）	1964
学術振興基金・研究助成基金	1987
学術振興基金	1990
シンポジオン	1992

寄附の内容	年
広報プラザ	1993
課外活動用設備	2004
課外活動用設備	2005
豊田講堂全面改修・増築	2007
有価証券による大学全体への寄附	2010
留学生用寄宿舎用地	2010
学生支援のための寄附（有価証券）	2016
ジェンダー・リサーチ・ライブラリ	2017
研究者支援のための寄附（有価証券）	2018
オークマ工作機械工学館	2020

名古屋大学の支援事業

▶ 海外派遣日本人学生給付金

本学ではグローバル社会で活躍するリーダー育成のため、日本人学生の海外派遣を推進しています。今後は日本人学生全員の派遣を目標とし、基金による支援学生をさらに増やしていきたいと考えています。

▶ 牧誠記念研究助成

パソコン周辺機器ブランド「バッファロー」を中核とするメルコグループの創業者、故牧誠氏からの有価証券等寄附を原資とし、顕著な業績や研究萌芽を創出しつつある工学系分野の若手研究者に対し、研究費助成を行い、学術研究の振興を図るものです。

▶ 下駄の鼻緒奨学金

「お礼は次の困っている人に」下駄の鼻緒が切れた際、替えの鼻緒をくれた女性の言葉を胸に、本学卒業生が設立した奨学金です。成績優秀でありながら経済的理由により修学が困難な学生に対し、奨学金を授与しています。

▶ アジアサテライトキャンパス奨学金

本学はアジア諸国の国家中枢人材を育成すべく、6カ国にアジアサテライトキャンパス学院を開設しています。そこで学ぶ各国の行政官などの学生に対し、本邦キャンパスでのスクーリング費用を支給しています。

▶ G30学部留学生奨学金

世界から優秀な人材を受け容れるため、特に優れた留学生に奨学金を支給しています。現在、留学生数は年間2,000人を超え、さらなる支援が必要となっています。

G30とは:文部科学省の国際化拠点整備事業(グローバル30)のこと。英語による授業のみで学位が取得できる体制を整えています。

▶ ホシザキ奨学金

フードサービス機器メーカー・ホシザキ株式会社の会長ご夫妻が設立した「坂本ドネイション・ファウンデイション株式会社」の株式をご寄附いただき設立したものです。本奨学金は、「ものづくりを学ぶ、将来ある学生を支援したい」とのご夫妻の意向を受け、給付型奨学金として、経済的に困窮した学生に対して給付します。

奨学生の声

大学生活では、1年次のアメリカ語学研修をきっかけに、2年次のモナシュ大学へのグローバルプロフェッショナルプログラム、3年次のシンガポールマネジメント大学への交換留学と多くの留学を経験しました。「日本企業のダイバーシティ」「アジアの経済発展」などに興味があったため、留学先で経験したさまざまな国の学生や市民との交流は、研究テーマに対する学生としての関心をより一層深める機会となりました。

留学中のカリキュラムは想像を超えるハードワークで、特にマネジメント大学では相当シビアな日々を過ごしました。英語の壁と、講義内容のレベルの高さ、多くの国から集まった仲間とのチームワークや競争。これまで味わったことのない焦燥感や劣等感などを抱きながら、ヒリヒリする毎日でした。これがリアルな「世界」、グローバルなのだと思い知らされました。

異国の地で、モチベーションを保てたのは、名古屋大学から支援を受けていたからこそ。つまり、奨学金や名大スタッフの皆様からのソフト面でのサポートが、「自分は応援されている」という実感を伴った大きな支えとなり、良い形で責任感が芽生えたからだと思います。

将来は自分が企画した海外プロジェクトを立ち上げたいと考えています。そして、お世話になった名古屋大学の後輩のために奨学金や留学アドバイスなどを通じてぜひ恩返しをしたいです。

「自分は応援されている」という実感が留学中の大きな支えとなり、良い形で責任感をもって留学できました。

渡邊 稜介さん

わたなべ りょうすけ

経済学部4年生（取材時）

シンガポールマネジメント大学 2018秋-2019春交換留学
海外留学奨励制度（交換留学）採択

過去にも学部1年次にノースカロライナ研修参加、海外留学奨励制度（短期派遣）に採択、
学部2年次に総長奨励に選ばれ、モナシュ大学研修へ参加している。

G30学部留学生

勉学や部活に打ち込み想像以上に成長できました

文学部4年（取材時）　シンガポール出身

1930年代に台湾で出版された日本語の婦人雑誌を例に、「良妻賢母」の概念がアジアに広まっていった過程を考察しています。来日時は日本語が全くわかりませんでしたが、現在は日本語能力試験1級を取得。弓道部で日本文化への理解も深めています。4年間でここまで成長できたのは、皆様のご支援のおかげです。名古屋大学のすばらしさを世界に広めていきたいです。

下駄の鼻緒奨学生

ご支援を励みに実験を続け研究成果の発表へ

理学研究科2年（取材時）

ノーベル賞受賞者を輩出した歴史ある研究室で、素粒子の検出器開発を進め、医療分野でも役立つ重イオン検出への応用を研究しています。実験は時間がかかるものですが、奨学金のおかげで集中して取り組め、成果はアメリカの学会誌に投稿する予定です。ご支援は自分が認められたという自信になります。基金を励みに、後輩の皆さんにも頑張っていただきたいですね。

寄附者メッセージ Message

卒業生
大学教育が社会を良くする基盤だと思うので、
大学教育機関を支援したいと思ったから。

卒業生 **母校愛**です

教職員
名古屋大学を愛しているから。

ますますグローバル化する社会において、
世界屈指の知的成果の創出や次世代研究者の育成はもちろん、社会貢献の高い志を持つ人材育成を行うことは、非常に有意義であると考えます。
そのような観点より、「名古屋大学基金」の趣旨に同意しました。
在学生の保護者

卒業生
寄附金により、**より良い未来を築く一助となれば**との思いから。

教職員
毎日感動を与えてくださる先生方・学生方へのご恩かえしに
微力ながらでもなればと考えたため。

個　人
先端的技術の開発と実用化への取り組みに感銘を受けました。
微力ながら応援しています。

卒業生
還暦になりました。ここまでこれたのは、お世話になった名古屋大学のおかげだと思っています。
未来の女性リーダーを応援します。

個　人
図書館資料の充実と公開、図書館施設・設備の充実等により、名古屋大学に関わる学生・教員等の教育研究活動をしっかりバックアップしていってほしい。

在学生の保護者
実りある学生生活を提供するために役立ててください。

在学生
ノーベル賞受賞の先輩たちを見習い、世界に羽ばたいてほしい!

卒業生
後輩達に良い教育環境の中で勉学に励んでもらいたいため。

卒業生
いつも漕艇部の活動を応援しています。
今後、ますます漕艇部を発展させるため、また、より良い練習環境を提供するために、是非素晴らしい本艇庫を建設してください。
よろしくお願いします。

在学生の保護者
卒業生の保護者ですが、
優秀な医師の育成につながればと思い、
毎年少しですが寄附させていただいています。

多くの寄附はできませんが、お役に立てれば幸いです。
世界トップの大学を目指して頑張ってください!

卒業生
名古屋大学工学部・工学研究科が
これからも良くなっていってほしいと思ったから。
卒業生

卒業生
ホームカミングデーに参加したのが、きっかけです。

卒業留学生
I have got lots of help from Toryumon Program and I hope it can continue to help more students diong PhDs.

個　人
地元の国立大学に貢献出来る良い機会と考えていますので。

寄附者の皆様へ

ご寄附をいただいた皆様とのご縁を、末永く大切に。

ご寄附をいただいた皆様への謝意を、寄附者顕彰として用意しております。
芳名録への掲載、銘板へのお名前の掲載から、各種大学イベントへの
ご招待など、皆様とのご縁を末永く大切に育んでまいります。

寄附者顕彰制度

すべての寄附者様へ

感謝状

ご寄附をいただいた皆様に感謝の心を込めて、感謝状を贈呈いたします。

寄附者芳名録

ご芳名と寄附金額を本学発行の寄附者芳名録に掲載させていただきます。

※公開をご希望されない方は掲載いたしません。

総額20万円以上の寄附者様へ

銘板

総額20万円以上の寄附者様のご芳名を銘板に刻み、豊田講堂内に掲示させていただきます。

総額100万円以上の寄附者様へ

感謝状贈呈式

総額100万円以上のご寄附をいただいた皆様へ毎年3月に総長より感謝状を贈呈いたします。

※法人・団体は1,000万円以上

感謝の集い

毎年3月に行う名古屋大学基金感謝の集いへご招待します。奨学生による挨拶の後、コンサートや総長との懇談会などをお楽しみいただきます。

ホームカミングデイ

コンサートなど、さまざまな催しが行われるホームカミングデイへ、特別にご招待いたします。

キャンパスコンサート

豊田講堂ホールで開催される多彩な音楽家たちによるコンサートへ、特別席をご用意してお招きします。

名古屋大学レクチャー

世界トップレベルの研究者を招き、最先端の研究内容を紹介する講演会へ、特別にご招待いたします。

高額寄附者様へ

冠奨学金

高額なご寄附に対し、寄附者様の意向を踏まえ、冠奨学金など名称付与を行います。

基金が支える名古屋大学の MIRAI

指定国立大学として、世界屈指の研究大学を目指して

名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、
今後も日本や地域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。
「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させていただきます。
何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

世界屈指の 研究大学へ

01 世界屈指の研究成果を生み出す研究大学へ

■ 世界的に卓越した研究拠点の確立

□ 重点分野として「世界トップレベル研究拠点が先導する化学・生物学融合研究」
「未来エレクトロニクス研究」「素粒子・宇宙物理学」「超高齢社会を支える医学・生命科学研究」

■ 若手や次世代を担う研究拠点候補を重点的に育成・支援する「研究の進展に合わせた多層的なシステム」の構築

□ 最先端国際研究ユニットの拡大
□ 若手育成プログラム（Young Leaders Cultivation）の拡大
□ 若手新分野創成研究ユニットの拡大

03 世界から人が集まる 国際的なキャンパスと海外展開

■ 国際的に魅力ある教育プログラムの充実

□ 大学院授業の英語化の推進
□ G30プログラムによる留学生受け入れ枠の拡大

■ G30プログラムの日本人学生への拡大

■ ジョイント・ディグリー推進につながる国際大学間コンソーシアムを主導

■ アジアの研究者と世界の課題解決に挑む「アジア共創教育研究機構」の活動推進

■ 海外への情報発信機能の強化に向けた広報体制の拡充

02 知識基盤社会をリードする 卓越した博士人材の育成

- **博士課程教育の高度化と質保証に向けた全学的プラットフォーム「博士課程教育推進機構」の設置**
  - □ トランスファラブル・スキルの涵養
- **最先端研究拠点等と連携した博士課程教育プログラムの提供**
  - □ 卓越大学院の設置
- **国際研究ネットワークと連動したジョイント・ディグリー実施**
- **産学共創教育（Sharing Education）の推進**
- **博士後期課程学生の経済支援・キャリアパスの拡大**
  - □ 基金を活用した奨学金の創設

04 社会と共に 躍進する名古屋大学

- **イノベーションの創出、実践的人材育成、産業界への貢献等に向けた研究マネジメント体制の強化**
- **「組織」対「組織」の本格的な産学共同研究の推進**
  - □ 共同研究費用負担の適正化に対応する「指定共同研究」の推進
  - □ 産学共同研究講座・部門の拡充
- **産学官共創によるオープンイノベーション研究開発拠点の整備**
- **大学発ベンチャー企業の創出による産業への貢献**
  - □ スタートアップ支援、アントレプレナーシップ教育の充実

名古屋大学基金へのご寄附

名古屋大学基金は、いただいた寄附金を基金として積み立て、その運用益で各種の事業を展開しています。
さまざまな振込み方法をご用意し、金銭以外のご寄附も承っているほか、
支援目的を特定できる特定基金、修学支援事業へのご寄附も募っております。

特定基金
寄附金の一部を、直接、指定の支援事業に活用させていただきます。
皆様の想いを支援事業の推進に役立てます。
※特定基金の詳細については、各支援事業のパンフレット、ホームページをご参照ください。

修学支援事業
経済的な理由で修学が困難な学生等に対して、各種事業を通じて必要な支援を行うことを目的としています。

寄附金のお申込み方法

名古屋大学基金では以下の方法で、インターネットからのご寄附を受け付けています。

- クレジットカード決済
- インターネットバンキング決済(ペイジー)
- コンビニ決済(番号方式)
- コンビニ決済(払込票方式)
- ATM決済(ペイジー)
- 銀行振込

お申込みはこちら

銀行振込をご希望の個人の方は振込用紙を送付させていただきます。
名古屋大学Development Office(DO室)までご連絡ください。

寄附金以外のお申込み方法

■ 土地・建物建築・有価証券などによる寄附

土地の寄贈、建物建築による寄附、株式・社債・国債などの有価証券による寄附など、多様な形態でご寄附いただけます。
ご寄附に当たり特段のご意向がおありの場合も考えられますので、事前に名古屋大学Development Office(DO室)へご相談ください。

■ 遺贈による寄附

卒業生、退職職員、教職員、一般篤志家等で資産を遺贈として寄附したいと思われている方々に対して、信託銀行と提携して手続きをいたします。
遺贈によるご寄附をお考えの方は、提携信託銀行などをご紹介いたしますので、名古屋大学Development Office(DO室)までご連絡ください。

法人・団体の方のご寄附

法人・団体の方は、インターネットから各種決済方法によりお申込みいただけます。
また、納入依頼書をご希望の方もインターネットからお申込みいただけます。

■ 領収書の発行

領収書は、本学に入金された日付での発行となります。領収書の発送は、本学への入金後、約2週間～1カ月後となりますので、ご了承ください。

■クレジットカード決済の場合
各カード会社から名古屋大学へ入金された日が入金日となります。お申し込みから本学に入金されるまで、約1～2カ月かかります。お申し込みが12月以降の場合の領収書は、翌年の日付で発行される場合があります。

■ペイジー決済(インターネットバンキング・ATM)、コンビニ決済の場合
各金融機関から決済代行業者に送金され、その後、名古屋大学に入金となるため、申込受付日やお振り込みいただいた日ではなく、決済代行業者から名古屋大学への入金日となります。ご入金手続きをいただいた後、本学に入金されるまで、約1～2カ月かかります。ご入金手続きが12月以降の場合の領収書は、翌年の日付で発行される場合があります。

税制上の優遇措置

名古屋大学へのご寄附については、税制上の優遇措置が受けられます。
平成30年度の税制改正により、個人が株式や土地などの現物資産を寄附した場合、手続きをすることで、みなし譲渡所得税が非課税となりますので、名古屋大学Development Office（DO室）までご連絡ください。

個人の皆様

本学が発行した「寄附金領収書」を添えて確定申告を行うことで、優遇措置が受けられます。

■ 所得税（所得控除）

寄附金額が年間2,000円を超える分について、所得控除を受けることができます。

寄附金額 − 2,000円 ＝ 所得控除額

（控除対象となる寄附金の上限額は、当該年分の総所得金額の40％です）

■ 住民税

本学を「寄附金税額控除対象法人等」として指定している都道府県・市区町村にお住まいの寄附者の皆様は、所得控除に加えて、翌年の個人住民税が軽減されます。控除対象の地方自治体については、名古屋大学基金ホームページ（http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/）よりご確認ください。

（寄附金額 − 2,000円） × 4～10%※ ＝ 住民税控除額

（控除対象となる寄附金の上限額は、当該年分の総所得金額の30％です）
※● 都道府県が指定した寄附金は4％● 市区町村が指定した寄附金は6％（都道府県と市区町村双方が指定した寄附金の場合は10％）

■ 相続税

遺贈による寄附の場合、被相続者様の相続税からその金額が非課税となります。

修学支援事業における税制上の優遇措置

平成28年度税制改正により、国立大学法人等が実施する修学支援事業に対する個人の方々からのご寄附について、これまでの「所得控除」に加え「税額控除」が適用の対象となりました。
名古屋大学基金の「修学支援事業」へのご寄附は上記の対象となりますので、確定申告の際に、寄附者様において、所得控除又は税額控除のいずれかを選択することができます。

■ 税額控除について

個人が寄附した金額の一定割合を、所得税額から直接控除することができる制度で個人の所得税率に関係なく税額から直接控除されるため、多くの方にとって所得控除と比較して減税効果が大きくなります。

（所得金額（年収） − 諸控除（扶養控除等））× 税率（5% 10% 20% 23% 33% 40% 45%）＝ 所得税額（寄附者-2000円）×40%

具体例
●年収500万円 寄附者が10万円を寄附した場合

税率に関わりなく98,000×40%=39,200円を控除

確定申告の際には、寄附金領収書と「税額控除に係る証明書（写）」の提出が必要となります。「税額控除に係る証明書（写）」は、寄附金領収書とともにお送りいたします。

■ 所得控除について

寄附者様の所得に応じた税率を寄附金額に乗じた額を所得控除額とします。所得金額に対して寄附金額が多い場合や、所得税率の高い方の場合、所得控除を選択した方が有利な場合があります。

（所得金額（年収） − 諸控除（扶養控除等）（寄附者-2000円））× 税率（5% 10% 20% 23% 33% 40% 45%）＝ 所得税額 寄附金控除

具体例
●年収500万円 寄附者が10万円を寄附した場合

100,000-2,000=98,000円

税率 20%（課税所得金額が330万円から695万円の場合）

98,000×20%=19,600円を控除

確定申告の際には、寄附金領収書の提出が必要となります。（「税額控除に係る証明書（写）」は必要ありません。）

※上記はあくまでも目安です。実際は収入の種類、各種所得控除等により変動が生じます。

法人様

寄附金の全額を損金算入することができます。

名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY

NAGOYA UNIVERSITY 150th Foundation

名古屋大学基金
NAGOYA UNIVERSITY Foundation

お問合せ先

〒464-8601名古屋市千種区不老町
名古屋大学Development Office（DO室）
TEL.052-789-4993 FAX.052-747-6383
E-mail kikin@adm.nagoya-u.ac.jp
http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/

名古屋大学基金 検索